

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (1) 教育に関する措置 ~国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学~

ア グローバル社会で活躍できる人材の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
1	<p>〔全学的なグローバル教育の推進〕 全ての科目を英語で学び専門の学位（経済学）を取得するグローバルビジネスコース、実践的な英語コミュニケーション力やグローバルリーダーとなるための素養・能力を身につける副専攻のグローバルリーダー教育プログラム（GLEP）等を中心として、国際的課題に対応できるコミュニケーション力を有した人材を育成する。 また、学生の自律的かつ継続的な英語学習を支援する取組を全学的に推進する。</p>	<p>副専攻のグローバルリーダー教育プログラム（GLEP）や国際商経学部グローバルビジネスコース（GBC）を中心に、国際的課題に対応できるコミュニケーション力を有した人材を育成するための取組を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外英語研修に加え、海外留学を必修とする新カリキュラム（令和6年度入学者より）の作成（国際商経学部GBC） ・英語による授業数を増加した新カリキュラム（令和6年度入学者より）の作成（国際商経学部 経済学コース・経営学コース） <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で行われている講座数：145 講座 ・国際学会で発表した学生数：80 人 ・CEFR_B2 レベル到達数：250 人 ・外国人教員比率：4.5%

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
2	<p>〔ポストコロナを見据えた国際交流の構築と高度外国人材の育成〕</p> <p>海外の大学との学術交流協定の締結を積極的に推進し、海外インターンシップや海外語学研修等、学生の更なる海外留学を促進するとともに、ICTを用いたオンラインによる連携・交流等、ポストコロナを見据えた新たな国際交流のスキームを構築し、グローバル社会で活躍できる人材の育成を推進する。</p> <p>また、国際学生寮に設置する国際交流センターにおける教育・交流プログラムの充実を図る等、留学生や外国人研究者の受入に配慮し、留学生等の受入の拡大に努め、日本や母国でグローバルに活躍できる高度外国人材の育成を推進する。</p>	<p>国際交流センターを中心に、グローバル社会で活躍できる人材を育成するための取組を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生に向けて、国際交流・多文化理解・国際コミュニケーション力の向上の3つのテーマによるプログラムを提供 ・海外大学とのオンラインを活用した教育・交流プログラムの強化 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生数（派遣）：150人 ・留学生数（受入）：240人

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (1) 教育に関する措置 ~国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学~

イ 地域のニーズに応える専門人材の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
3	<p>〔地域の特色を生かした連携教育の推進〕</p> <p>兵庫の地域課題を体系的に学習し、地域と協働して実践的に活躍する力を育成する副専攻の地域創生人材教育プログラムや、防災マインドを持ち、被災地や地域社会で役立つ現場力や実践力を育成する副専攻の防災リーダー教育プログラムをはじめ、地域の課題を解決し、地域や社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>副専攻の地域創生人材教育プログラム・防災リーダー教育プログラムを中心に、地域の課題を解決し、地域や社会に貢献できる人材を育成するための取組を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の専門科目へと移行する学生に対し、フィールドとの繋がりを生かした課外活動を継続的に支援（地域創生人材教育プログラム） ・「防災リーダー育成講座」を充実させ、防災士の資格の取得を推進（防災リーダー教育プログラム） <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創生人材教育プログラム受講者数：50人 ・防災リーダー教育プログラム受講者数：30人

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
4	<p>〔大学院における専門教育・リカレント教育の充実〕</p> <p>大学院において、減災復興リーダーや災害看護リーダーの育成に努める等、高い専門性や特色ある学問領域での識見を持ち、社会の課題に挑戦的に取り組む幅広い教養を持った高度な専門人材の育成を推進する。また、グリーントランスフォーメーション（GX）、デジタルトランスフォーメーション（DX）等の産業界や地域のニーズに応えるリカレント教育プログラムの開発と実施拠点整備を進め、社会人を対象とした大学院における高度なリカレント教育の充実を図ることにより、グリーン社会・デジタル社会で活躍できる専門人材を育成する。</p>	<p>大学院において高度な専門人材の育成を推進するとともに、グリーントランスフォーメーション（GX）・デジタルトランスフォーメーション（DX）等の産業界や地域のニーズに応えるリカレント教育の充実を図る。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」によるフェローシップ支給対象学生の採択 ・リカレント学習拠点（新長田キャンパスプラザ（仮称））について、令和6年度の開設に向け体制等を検討 ・DXなど地域や産業界の新たなニーズを反映させたリカレント教育プログラムの充実化（社会科学研究科 経営専門職専攻） ・認定看護管理者養成コースの西サテライトの設置をはじめ看護師など医療関係者のリカレント教育を充実（先端医療工学研究所） <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学研究科経営専門職専攻（社会人に特化）志願倍率：2.5倍（定員45名）

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (1) 教育に関する措置 ~国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学~

ウ 高度な専門性を有する人材の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
5	<p>〔社会の変化に的確に対応した大学院改革等の検討と推進〕 急速なグローバル化や高度情報化社会の進展等、社会の変化に的確に対応し、魅力ある教育研究を進めるため、経済・経営系大学院や情報系大学院、理学系大学院等について一体的な改革を検討し、改革を着実に進めていく。また、学部・学科についても、常に時代に即応した再編等を検討する。</p>	<p>社会の変化に的確に対応し、魅力ある教育研究を進めるため、大学院改革を着実に進めていく。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端医療工学研究所のオープン大学院において、工学、理学、環境人間学、看護学、情報科学の各研究科からの科目提供に加え、新たにデジタルヘルス、データヘルスの2科目を増強 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端医療工学研究所オープン大学院での開講科目数：9科目
6	<p>〔社会情報科学部の充実と時代に即応した学部改編等の検討〕 平成31年4月に開設した社会情報科学部では、令和3年4月に開設の情報科学研究科と連携のうえ、教育内容の更なる充実を図り、社会を変革できる人材を育成する。 また、他学部においても国際社会で活躍するグローバルリーダー等、社会を牽引する次世代リーダーの育成強化に向け、常に時代に即応した学部・学科の改編等を検討する。</p>	<p>社会情報科学部では、情報科学研究科と連携のうえ、教育内容の更なる充実を図る。 また、社会を牽引する次世代リーダーの育成強化に向け、学部・学科の改編等を検討する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学研究棟における共同研究室の利用を通じて、情報科学研究科への進学者と4年生とのコミュニケーションを図り、学部から大学院への道筋を定着させる（社会情報科学部） ・放射光施設（SPring-8、ニュースバル）やスーパーコンピューター「富岳」を活用した先進的な教育プログラムを開発するとともに、デジタル・グリーン等の成長分野の人材育成に向けた学部等の改編を検討 ・理工系分野における女子学生、外国人留学生等の受入を促進するための取組を推進

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (1) 教育に関する措置 ~国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学~

エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
7	<p>〔教養教育の充実〕</p> <p>創基100周年ビジョンに掲げる基本方向「社会から信頼され評価される、世界水準の大学」の実現に向け、幅広い視野と教養を基盤とした豊かな人間性と課題探求能力を持った人材を育成するため、教養教育プログラムを改編するとともに新たな実施体制を構築し、教養教育の充実を図る。</p> <p>教養教育では、環境・エネルギー等のGX関連や数理・データサイエンス・AI、グローバル関連等の講義を通じて、時代のニーズに即した多様な知識やグローバルリテラシーの習得を図り、国際社会や地域社会で活躍できる創造力と自律性を有する人材を育成する。</p>	<p>教養教育プログラムを改編するとともに新たな実施体制を構築し、教養教育の充実を図る。</p> <p>デジタル時代のニーズに即した能力を育成するため、「数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) 教育プログラム」の認定を受けるための手続を進める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育の充実に向け、令和4年度に取りまとめた科目体系原案等を基に、より具体的な科目編成や実施方法等について検討を進める。また、実施体制の更なる具体化に向け、教員配置を含めた組織・運営体制の検討を引き続き進める。 ・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル)」の認定に向け、令和4年度に実施の点検・評価を踏まえ、文部科学省に認定申請を行う。

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
8	<p>〔学部横断教育及び独立系大学院等との連携の推進〕</p> <p>学際的な教育活動を促進し、学問的な視野を広げ、幅広い教養を兼ね備えた創造力のある人材を育成するため、総合大学の強みを生かし、学際的・複合的な専門分野において他学部科目を履修できる学修環境の整備を検討する。加えて、各学部と独立系大学院等との共同研究の実施等を通じて、学生・教職員等の一体感の醸成を図るとともに、学部や研究科、キャンパスの枠を超えた教育活動の連携・交流を推進する。</p>	<p>教職課程の更なる質の向上を図り、社会の変化に対応した教員を養成する。</p> <p>また、独立系大学院の教員が学部教育の講義・演習を担当し、学生・教職員等の一体感の醸成を図るとともに、学部や研究科、キャンパスの枠を超えた教育活動の連携・交流を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職教育センターにおいて、教職課程のカリキュラム編成や自己点検・評価を実施し、教職課程の内部質保証を推進 ・教職課程の拠点と位置づけた姫路環境人間キャンパスにおいて、教職科目の共通開講に向けた具体的調整（ICT機器を活用した授業等）や学生へのきめ細やかな助言・指導等を行い、学修者本位の教員養成を図る。 ・情報科学研究科では、社会情報科学部のカリキュラムの見直しにあわせて、提供科目の増加などの連携強化を検討 ・地域資源マネジメント研究科及び減災復興政策研究科では、芸術文化観光専門職大学の専門科目を担当 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状取得者数（学部・大学院）：延べ100人

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (1) 教育に関する措置 ~国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学~

オ 人材育成に向けた教育システムの充実

(7) 時代の変化に対応した人材育成の仕組みづくり

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
9	<p>〔ポストコロナにおける新たな教育手法の確立〕</p> <p>コロナ禍におけるオンライン授業の経験を活かし、対面授業とオンライン授業の双方の利点を取り入れたベストミックスによる教育を構築し、ポストコロナ（ニューノーマル）における新たな教育手法を確立する。</p>	<p>教育へのDX活用を積極的に推進するとともに、対面授業とオンライン授業の双方の利点を取り入れたベストミックスによる教育の構築に向けた取組を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学修振り返りアンケート」を実施し、授業に関する学生意見を蓄積のうえ、カリキュラム編成・授業改善の検討材料としていく。 ・BYODのグッドプラクティスを収集し、モデル学部の指定、他学部への展開を目指す。 ・各アクセスポイントの通信量、混雑状況を調査し無線LANシステムの更新・整備を実施
10	<p>〔教学IRの実施による教育改革の推進〕</p> <p>全学機構を中心として、各種教学データを多角的に分析する教学IRを実施し、教育課程の体系化や教育方法の改善に努める等、社会から求められる県立大学を目指した教育改革を推進する。</p>	<p>大学全体・学位プログラム・授業科目の三層レベルそれぞれでの点検・評価・改善の取組の実践を通じた教学マネジメントを確立するための取組を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度設置の「教学マネジメントセンター」において、令和4年度に導入した内部質保証の取組を定着させる。 ・FD・SD活動を実施しつつ、全学的な教学IRを通じて、教育・学修成果の更なる可視化を図る。 ・自己評価委員会と連携しながら、各部局における自己点検・評価を基にした内部質保証の実質化を図る。

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
11	<p>〔多様な学生の受入促進と大学入試改革の推進〕 明確な入学者受入方針（アドミッションポリシー）を掲げ、理工系女子学生、外国人留学生、社会人学生等の多様な学生の受入を促進するとともに、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）について、多面的・総合的に評価する入試制度の導入を図り、優秀な学生の確保に努める。また、多様な入試制度にも対応できる体制の整備を進める</p>	<p>理工系女子学生、外国人留学生、社会人学生等の多様な学生の受入を促進し、優秀な学生の確保に努める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学部の女子学生特別選抜、全学部の外国人及び帰国生選抜、看護学部の社会人総合型選抜を実施し、多様な受験生の受入れを促進 ・令和7年度入学者選抜の詳細（各科目の試験配点等）を検討し、早期に確定。積極的に受験生に情報を発信 ・令和5年度学校推薦型選抜の入試問題について、本学HPでの公開を計画するなど、受験生に配慮した積極的な情報公開を実施 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学者志願倍率（学部・一般選抜）：公立大学全国平均以上

(イ) 多様な学生のニーズに的確に対応した支援の実施

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
12	<p>〔多様なニーズに対応した学生生活の支援〕</p> <p>学生の心の悩み・ハラスメント等に対応する相談支援体制を強化するほか、学生の多様なニーズに対応した制度を検討し、充実した学生生活を支援する。また、障がいの有無、性別・年齢・国籍の相違等に対し、学生・教職員の意識啓発・理解促進を進めるとともに、支援を要する学生への支援体制の整備に努め、全学的にダイバーシティを推進する。</p>	<p>多様なニーズに対応した学生生活を支援するとともに、学生が相談しやすい体制の整備に努める。</p> <p>また、障がいの有無、性別・年齢・国籍の相違等に対し、学生・教職員の意識啓発・理解促進を進め、全学的に「ダイバーシティ&インクルージョン」を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度より国が導入を検討している授業料等の減免措置制度を踏まえ、現行制度の見直しを含めた、新制度導入の検討及び実施準備を進める。 ・令和4年度に保健センターに開設した心理相談窓口、よろず相談窓口において、複雑化する学生の相談に丁寧に対応するとともに、学生へ広く周知を行う。 ・障がい学生支援ガイドラインを改定するとともに、全学的に障がい学生支援体制を整備
13	<p>〔総合的なキャリア形成及び就職支援の強化〕</p> <p>入学時から一貫したキャリア教育を推進し、将来の進路選択やキャリア設計に対する意識の醸成を図る。また、各キャンパスキャリアセンターによる支援を充実させるほか、インターンシップへの派遣、県内を中心とした魅力ある企業の情報発信、第二新卒者等への就職支援等、総合的なキャリア形成・就職支援の強化を図る。</p>	<p>キャリア教育を推進し、将来の進路選択やキャリア設計に対する意識の醸成を図るとともに、各キャンパスキャリアセンターを中心に就職支援の強化を図る。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の時期の早期化や、企業の採用活動の変化（インターンシップを活用する企業の増加、通年採用の導入、コロナ禍におけるWEB面接の増加等）を踏まえ、キャリアガイダンス・各種就職対策講座・業界研究・企業説明会等のより効果的な実施に努める。 ・神戸市内（三宮）のキャリアセンター（サテライトオフィス）において、就職活動中の学生や卒業生等を対象に相談を実施する等、多様なニーズに対応した取組を推進 ・障がい学生のキャリア支援について、コミュニケーションサポート事業の拡充を図る。 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率（学部）：全国平均以上

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
14	<p>〔起業マインドの養成及びスタートアップ支援教育の推進〕 学生の起業マインドを養成する効果的な教育プログラムを確立するとともに起業にかかるスタートアップ支援教育を推進し、社会に新たな価値を創出できる人材を育成する。</p>	<p>学生の起業マインドを養成する起業人材育成プログラムの開講など、起業マインドの養成及びスタートアップ支援教育を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の起業マインドを養成する起業人材育成プログラムの開講 ・令和6年度に供用開始予定の新長田学習拠点で提供するスタートアップ支援プログラムの検討 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業人材育成プログラムの受講者数：40人
15	<p>〔学術情報環境の充実〕 情報処理教育をはじめとした学術情報環境の充実を図るため、情報システムの運営管理体制の整備・一元化に取り組む。</p>	<p>I C T技術を有効に活用した教育を展開するため、学習支援機能の充実に取り組む。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を補完するオンライン授業がスムーズに行えるよう、配信用ツール（Zoom等）や学習管理システム（LMS）の活用支援、パソコン、ルーターの貸出 ・Google アカウントの補完的な使用

(ウ) 中高大連携の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
16	<p>〔中高大連携教育及び附属中学・附属高校の教育課程の充実〕</p> <p>附属中学・附属高校の利点を最大限に発揮するため、学部・研究科が有する教育研究資源を活用した中高大連携教育の充実を図るとともに、中高一貫教育の優位性を生かした更なる特色化や学力の向上に資する教育課程の構築を検討する。</p>	<p>附属中学・高校の利点を最大限に発揮するため中高大連携教育を積極的に実施するとともに、中高一貫教育の優位性を生かした特色ある教育を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びを理解し、学問への関心を高めるよう、各学部が教育資源を幅広く活用した中高大連携教育を積極的に推進 ・附属中学校では、入寮本格実施の2年目を迎え、入寮生が増加することから、寄宿舎の職員組織を改善し、学校と寮との更なる連携体制を推進 ・附属高校では、Biz World や県立大学の学部・附置研究所との連携を深めながら「学びたいことが学べる」特色ある学校づくりを推進 ・11月の附属高等学校・中学校創立30周年記念式典の実施に向け、中高の連携体制を強化して、一貫教育を更に充実 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属高校から県立大学への合格者数：40人（参考：附属高校定員160人／年）

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (2) 研究に関する措置 ~次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学~

ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
17	<p>〔先端医療工学研究所を基盤とした革新的な医工学の研究開発〕</p> <p>先端医工学研究センターにおける研究開発の蓄積を踏まえ、令和4年度に開設の先端医療工学研究所を医産学連携の拠点とし、医療現場と密接に関連して高度な教育研究を行うとともに、多様な学術分野と医療を融合させることにより先進的な技術開発等に取り組む。</p>	<p>先端医療工学研究所では、隣接する県立はりま姫路総合医療センターや神戸大学医学部、大学病院等との連携強化に努め、本学が有する工学・理学・看護学・環境人間学・情報科学などの分野の知見・技術シーズと医療を融合させることにより、医療関連機器、デジタルヘルスなどにおける先端研究の推進を図る。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立はりま姫路総合医療センターや神戸大学医学部など、医療機関や企業との共同研究や連携セミナー、技術相談等を実施
18	<p>〔金属新素材研究センターを拠点とした新素材の研究開発〕</p> <p>金属素材製造・加工企業が集積し、「ひょうごメタルベルト」を形成する地域の特徴を生かすため、付加価値の高い新素材の研究・開発を行う拠点として、県立工業技術センターのサテライト『金属新素材研究センター』を新たに整備し、硬度・耐熱性・微細加工性に優れた金属粉末や3D造形技術の実現を目指す。</p>	<p>産学連携・研究推進機構では、金属新素材研究センターを拠点として、付加価値の高い新素材の研究・開発を行うなど地元金属産業界の技術力の向上に貢献する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属新素材研究センターが実施してきた金属新素材及び3D造形技術の開発を更に推進 ・「ひょうごメタルベルトコンソーシアム」会員企業との共同研究の実施による3D造形技術の中小企業への普及促進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
19	<p>〔ニュースバル等の多様な研究基盤を生かした先導的な研究の推進〕</p> <p>本学が有するニュースバル（軟X線）、西はりま天文台「なゆた望遠鏡」や、SPring-8（硬X線）、SACLA（X線自由電子レーザー）、スーパーコンピュータ「富岳」等、県下に集積する多様な研究基盤を生かし、国内外の大学や企業等とも連携して、未来を創造する先導的・創造的な研究を推進する。</p>	<p>本学が有するニュースバル、西はりま天文台「なゆた望遠鏡」等の多様な研究基盤を生かし、国内外の大学や企業等と連携した先導的・創造的な研究を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度産業科学技術研究所のニュースバル放射光施設では、極端紫外線リソグラフィ関連の技術開発について、共同研究及び学術相談を実施し、次世代半導体デバイス、レジスト材料及び評価機器等の開発関連での産業利用を推進 ・情報科学研究科では、「富岳」を活用した経済、分子動力学のシミュレーションなどの共同研究を推進 ・自然・環境科学研究所の宇宙天文系の天文学センターでは、「なゆた望遠鏡」による分光観測用の観測遂行プログラムを開発し、分光観測の観測効率の向上を目指す。
20	<p>〔全学的な異分野融合の推進〕</p> <p>特色ある研究領域や先端的な研究施設を有し、県下全域に拠点を持つ総合大学としての強みを生かし、外部人材の活用も含めて、各部局の枠を超えた研究者の交流を促進するとともに、分野横断・学際的研究プロジェクトを推進する。特に、本学は先進的な情報系の教育・研究組織を有するため、情報セキュリティ、デジタルヘルス、データ駆動型科学等の分野での全学的な連携や、GXの進展を踏まえた水素エネルギー共同研究センター、政策科学研究所、高度産業科学技術研究所及び関係研究科の共同によるエネルギー分野の研究を進める。</p>	<p>特色ある研究領域や先端的な研究施設を有する本学の強みを生かし、全学的に分野横断・学際的研究プロジェクトを推進する。</p> <p>特にGXの進展を踏まえたエネルギー分野の研究や、先端医療工学研究所を中心としたデジタルヘルス分野での研究において、関係研究所・研究科の連携を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素エネルギー共同研究センター、政策科学研究所、高度産業科学技術研究所及び関係研究科のほか、学外の関係機関等とも共同し、グリーン水素関連研究を推進 ・先端医療工学研究所では、本学が有する工学・理学・看護学・環境人間学・情報科学における知見・技術シーズと医療を融合させることにより、医療関連機器、デジタルヘルスなどの先進的な技術開発を推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
21	<p>〔SDGsの達成に寄与する学際的・創造的研究の推進〕</p> <p>本学の強みを生かした「全県キャンパス」で実践するGX、エネルギー、生物多様性、減災等の多種多様な研究をSDGsの枠組みで深化・発展させ、全学的な連携を図りながら、SDGsの達成に寄与する異分野融合による学際的・創造的研究を推進する。加えて、GX、カーボンニュートラル、SDGsの推進に資する教員の研究活動を重点的に支援し、グリーン社会の実現、SDGsの達成に寄与する研究活動の活性化を図る。</p>	<p>GX、カーボンニュートラル、SDGsの推進に資する教員の研究活動の支援や関係シンポジウム等の開催による研究成果の発表を行い、グリーン社会の実現やSDGsの達成に寄与する研究活動の活性化を図る。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長のリーダーシップによる「特色・個性化経費」を活用し、SDGsやGX、カーボンニュートラル関連研究への支援を行い、研究活動の活性化を図る。 ・本学ホームページのSDGs特設サイトと国連アカデミックインパクトのホームページとの連携を図り、情報発信を強化 ・SDGsに関連するシンポジウム等の開催を通じて、「関西SDGsプラットフォーム」や「ひょうごSDGs Hub」に加盟する関係団体との情報共有を図る。 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに係る全学的なフォーラム等の開催件数：3件
22	<p>〔学学連携の推進によるイノベーションの創出〕</p> <p>地域の国公立大学や高等専門学校等と、設置形態を超えて、各教育機関の強みを生かした組織的な連携を深め、共同研究や産学連携活動等、社会的課題の解決に取組、イノベーションを創出する。</p>	<p>地域の国公立大学や高等専門学校等との間で、各教育機関の強みを生かした連携を深め、学学連携を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属新素材研究センターでは、大阪大学異方性カスタム設計・AM研究開発センターとの連携を強化して、金属3D造形分野における交流を推進 ・工学研究科では、神戸高専等との連携を進め、卒業研究等を工学キャンパスにおいて実施するほか、大和大学との連携協定に基づく研究室間交流の取り組みを推進し、研究活動の発展とともに大学院における優れた学生の確保を目指す。 ・情報科学研究科では、推薦入試及び研究交流に関する協定を締結した明石高専、神戸高専等との間で特別講義の実施、インターンシップの受け入れや研究会を実施するなど、教育研究面での連携を更に推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
23	<p>〔研究活動の活性化による研究水準の更なる向上〕 全学的な研究水準の更なる向上を目指し、査読付き論文数等の研究成果について目標を定めて取り組むほか、附置研究所の更なる発展に向け、改編も視野に見直しを検討する等、研究活動の活性化を図る。</p>	<p>先進的で特色のある教員の研究活動を支援し、全学的な研究水準の更なる向上に取り組むほか、附置研究所の更なる発展に向けた検討を行い、全学における研究活動の活性化を図る。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長のリーダーシップによる「特色・個性化経費」を活用し、本学の先進的で特色ある研究を支援 ・著名な学術誌への論文掲載等の優れた研究業績を上げた教員への表彰等を通じて、教員の研究意欲の一層の向上を図るとともに、査読付き論文数等の増加を図る。 ・水素エネルギー研究の新たな拠点設置に向けた取組を推進 ・水素エネルギー共同研究センター、政策科学研究所、高度産業科学技術研究所及び関係研究科のほか、学外の関係機関等とも共同し、グリーン水素関連研究を推進（再掲） <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文数：1,150本 ・外部資金獲得額：20億円 ・科学研究費補助金の申請者率：100%

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (2) 研究に関する措置 ~次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学~

イ 地域資源を活用した研究の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
24	<p>〔県内各地の地域資源を活用した研究の推進〕</p> <p>コウノトリの郷公園をはじめ、人と自然の博物館、森林動物研究センター、淡路景観園芸学校、先端食科学研究センター等、県内各地に分散する地域資源を活用した研究施設を拠点として、県や地元自治体とも連携しながら、地域課題の解決に向けた研究を推進する。</p>	<p>県内各地に分散する地域資源を活用した研究施設を拠点として、地域課題の解決に向けた研究を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境人間学部の先端食科学研究センターでは、SDGs 達成のため未利用食資源の活用研究や県産農産物を使用した未病予防のための基礎的及び商品化への応用研究を推進 ・地域資源マネジメント研究科では、環境省が推し進める「保護地域以外の場所での生物多様性に貢献する場所（OECM）の認定」について、研究科の所在地である祥雲寺地区を地域住民との共同管理として、指定に向けて進めていく。 ・自然・環境科学研究所では、篠山層群の地質や恐竜化石等の調査を継続して実施するとともに、岡山理科大学を中心に国内外の研究機関と連携し化石・地質、関連した技術開発の研究を推進

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (2) 研究に関する措置 ~次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学~

ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
25	<p>〔グリーントランスフォーメーション(GX)に関する研究の推進〕</p> <p>「水素社会の推進」等の兵庫県や産業界が進める先進的な取組と連携・協力しながら、水素エネルギー利用や二次電池の開発等、基礎研究から社会実装まで幅広くGXに関する研究を推進する。特に、兵庫県等が推進する水素社会の実現に積極的に貢献するため、水素エネルギー研究の新たな拠点設置に向けた取組を進める。</p>	<p>県の水素社会推進構想の実現に貢献するため新たな研究拠点の設置に向けた取組を進める。また、本学の有する水素関連研究シーズの社会実装展開、放射光と計算科学を駆使したエネルギー関連材料開発に取り組み、幅広くGXに関する研究を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素エネルギー研究の新たな拠点設置に向けた取組を推進(再掲) ・水素エネルギー共同研究センター、政策科学研究所、高度産業科学技術研究所及び関係研究科のほか、学外の関係機関等とも共同し、グリーン水素関連研究を推進(再掲)
26	<p>〔減災復興・災害看護に関する研究の推進〕</p> <p>減災復興政策研究科を拠点として、国内外の研究機関とも連携し、減災復興に関する実践的な研究活動を推進する。</p> <p>また、災害健康危機管理WHO協力センターでもある地域ケア開発研究所においては、保健医療分野や災害・防災分野における健康維持活動に関する研究を推進する。</p>	<p>減災復興政策研究科を拠点として、国内外の研究機関とも連携し、減災復興に関する実践的な研究活動を推進する。</p> <p>また、災害健康危機管理WHO協力センターでもある地域ケア開発研究所においては、保健医療分野や災害・防災分野における健康維持活動に関する研究を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学研究科では、防災・減災に係るデータ科学と計算科学の融合研究において、減災復興政策研究科と連携した研究を推進し、実在地域において有効な防災・減災の具体的施策を提案 ・減災復興政策研究科では、ジャクアラ大学(インドネシア)、中東工科大学(トルコ)など、国外の研究機関との連携・交流を一層促進し、国際的な共同研究を推進 ・看護学研究科及び地域ケア開発研究所では、国内外の研究機関、WHOやWHO神戸センター等と共同・連携し、災害時の健康維持及び健康課題の解決に関する研究を引き続き推進

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (3) 社会貢献に関する措置 ～兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学～

ア 未来社会を先導する産学官連携の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
27	<p>〔産学官連携活動の推進〕</p> <p>神戸地区に、ICTをはじめとした都市型産業との連携拠点を新たに設けるほか、産学連携・研究推進機構が中心となって、企業、民間団体、自治体、産業支援機関（新産業創造研究機構[NIRO]、ひょうご産業活性化センター、商工会議所・商工会等）との連携を強化し、地元産業界と一体となって新産業の創出や県内産業の活性化に取り組む。</p>	<p>地元産業界との連携活動を推進し、新技術や新産業の創出に取り組むとともに、共同研究や地域共創の場の形成を行い、地域産業の高度化を目指す。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県、姫路市、民間企業等と共同で、カーボンニュートラルの実現に向けた水素エネルギー研究を実施する共創の場を形成するための取組を推進 ・姫路工学キャンパスに「地域共創ものづくり教育研究センター」を設置し、産業界と連携した基盤技術の開発を推進 ・産学連携・研究推進機構神戸ブランチにおいて、神戸地区の中小企業と本学研究者のマッチングを実施。I o T・A Iプログラミング等に関する技術相談、セミナーの開催、I o T・A I・ロボット展示会への出展を実施 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究・受託研究数：300件

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
28	<p>〔成長分野を支援する中核的機能の充実〕 データ社会の到来に合わせ、総合大学の強みを生かし、データの収集・解析から活用まで学際的に、AI・ビッグデータ・IoT等の成長分野を支援する中核的機能の充実を図るとともに、ベンチャー企業との連携、インキュベーションセンターの活用等により、起業レベルから既存産業の高度化まで、幅広い産業支援を行う。</p> <p>とりわけ、グリーン・デジタル等の成長分野については、本学が有するリソースや知見を活用した幅広い産業支援に取り組むとともに、共同研究や研究成果の実用化等を目指した連携を推進する。</p>	<p>産学連携・研究推進機構のコーディネーターによる人工知能研究教育センター（AIセンター）所属の研究者のマッチング等により、新たなイノベーション創出に向けた取組を図る。</p> <p>デジタル分野においては、地元企業と連携したDX研究を推進し、研究成果の実用化など幅広く産業支援を行うとともに、本学が有するリソースや知見を活用し、社会人向けDXリカレント教育をより一層推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなDX教材を作成するとともに、引き続き兵庫県や兵庫工業会と連携したDXリカレント教育を推進 ・地元企業等との共同DX事業（実証実験・教材作成）を引き続き実施
29	<p>〔ニュースバル等の産業利用・産学共同研究の促進〕 極端紫外線から軟X線領域に優位性を持つニュースバルの特徴を生かすとともに、県有ビームラインを含むSPring-8との相互連携を強化し、産業利用・産学共同研究を促進する。</p>	<p>高度産業科学技術研究所では、継続して極端紫外線（EUV）リソグラフィの基盤技術の開発を進めるとともに、EUVの短波長化の検討を進め、産業支援・産学共同研究を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・LIGAによる精密3次元構造体を用いた医療用治療機器の開発を進め、医療機器産業への実装を図る。 ・次世代半導体（BEUVL）の実用化に向けた開発研究を推進 ・産業利用、産学共同研究の更なるユーザー確保を推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
30	<p>〔知的財産の適切な保護及び研究成果の公表〕</p> <p>教職員、学生等による知的財産の積極的な取得・実用化を促進するとともに、知的財産ポリシーに基づき、適切に保護・管理を行う。</p> <p>また、先導的・創造的な研究成果を広く公表するとともに、その移転・実用化に取り組む。</p>	<p>産学連携・研究推進機構内に設置された知的財産本部において、知的財産の適正な保護・管理に努めるほか、知的財産コーディネーターを中心に、技術の掘り起こし、特許内容の広報活動、技術の移転に取り組む等、知的財産の活用を図る。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション・ジャパン、J S Tの新技术説明会等に参加し、保有する知的財産の積極的なPRを実施 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発明届出件数：25 件 ・出願件数：25 件
31	<p>〔県立病院等と連携した看護ケアの質的向上〕</p> <p>看護サービスの質評価研究の成果を生かして、医療施設等において看護ケアの質的向上や目標管理を支援し、地域医療の進展に貢献する。また、周産期ケア研究センターでは、県内助産師の技術向上等に努め、安心安全な周産期を支える。</p>	<p>看護学部及び看護学研究科では、臨床看護研究支援センターを中心に、県立病院等と連携し、看護ケアの質的向上に取り組む。</p> <p>また、科学的根拠に基づく看護・助産ケア方法の開発、質の高いケアを提供できる看護職の育成につながる活動を展開する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立病院等と連携したコンサルテーションやセミナーの開催や共同研究、臨床での研究支援を推進 ・質の高い看護支援を提供できる看護職の育成に向け、周産期ケア研究センターにおいて臨床助産師への研修を実施

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
32	<p>【医産学看の連携の推進】</p> <p>先端医療工学研究所に研究交流サロン「イノベーションサロン」を開設し、医師・看護師・栄養士等の医療関係者のニーズと本学や企業が有するシーズのマッチングを図り、医産学看が連携した共同研究・共同事業等を推進する。</p>	<p>先端医療工学研究所のイノベーションサロンにおいて、医師・看護師・栄養士等の医療関係者のニーズと本学や企業が有するシーズのマッチングを図り、医産学看が連携した共同研究・共同事業等を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の意見交換の成果を踏まえ、実現可能性調査の実施やデータヘルス等に関する共同研究・共同事業化に向けた取組を推進 ・県立はりま姫路総合医療センターとの連携を深め、客員研究員としての人的交流を、看護師だけではなく技師等にも拡大

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 兵庫県立大学 (3) 社会貢献に関する措置 ~兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学~
イ 大学が有する資源の地域社会における活用

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
33	<p>〔県民ニーズに応える公開講座等の充実〕</p> <p>多様な学部・研究科等を有する特色や、県下全域に広がる研究資源を生かし、県民ニーズに応える各種公開講座を開催するほか、社会人や高齢者を対象とした学習講座を幅広く提供する。特に、GX、DX、SDGs等の時代のニーズを的確に捉えた公開講座の幅広い提供に努める。</p>	<p>本学の特色ある多様な教育研究活動の成果を広く公開する。特に、GX、DX、SDGs等の時代のニーズを的確に捉えた公開講座の幅広い提供に努める。</p> <p>また、新長田キャンパスプラザ（仮称）に企業人材育成のリカレント学習拠点等を開設するための準備を進める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局等による特色ある公開講座の実施や優れた業績を持つ教員による「知の創造シリーズフォーラム」の開催 ・新長田キャンパスプラザ（仮称）を以下の機能を備えた拠点とするため、令和6年度の開設に向け体制等を検討 ①企業人材育成のリカレント学習拠点 ②産学融合型ベンチャー・スタートアップ支援拠点 ③産学連携・研究推進機構の神戸地区拠点 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の延べ受講者数：2,500人

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
34	<p>〔自治体・地域団体との連携の強化〕 自治体や地域団体等からの相談に応じて、地域創生に資する人材・情報・技術を大学内外でネットワーク化し、地域連携事業の充実により地域の核となる大学づくりを発展させる。</p>	<p>地域と大学の情報共有・ネットワーク化を進め、各種の相談業務等を通じて、地域の特性に合わせた課題解決に取り組む。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創生人材教育プログラムの教育フィールドの調整・確保や連携事業終了後のアフターケアを実施 ・看護学部及び地域ケア開発研究所では、自治体等と連携を図りながら、看護学の専門的知識・スキルの提供等を通して、ポストコロナに向けた県や市町の健康・危機管理施策等の実施を支援 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携事業の実施件数：650件

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 兵庫県立大学 (3) 社会貢献に関する措置 ～兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学～
ウ 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
35	<p>〔県内就職・地元定着を促進する取組の充実強化〕</p> <p>本学で学んだ外国人留学生を含め、新規学卒者の県内就職の促進に努めるほか、第二新卒者のUターンニーズに適切に対応し、地元への更なる定着を図るため、県内大学・地元企業・地元自治体等と連携し、インターンシップ事業・人材マッチング事業等の充実強化に取り組む。</p>	<p>学生に対する地元企業等の情報提供に努め、地元企業への理解と就職意欲を高めるとともに、県やコンソーシアムひょうご神戸が行う県内就職支援の取組等と連携し、県内就職及び地元定着の促進を図る。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業と本学学生が接触する効果的な機会の提供（企業説明会、OB・OG 交流会等） ・ 本学独自の取組である「県内企業マッチングシステム」や「兵庫県立大学 OB・OG メッセージ集」の登録企業数の更なる増加に取り組む <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職者のうち県内企業※へ就職した割合：60% <p>※県内に本社または事業所がある企業</p>

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学

(1) 教育に関する措置 ～芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学～

ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
36	<p>〔演劇の手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力の養成〕</p> <p>演劇やダンスのワークショップ等の実技と講義を交互に行う「コミュニケーション演習」を1年次の必修科目とし、対話的コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>また、1年次は全員が学生寮に入寮し、日常生活においても社会性と協働性を身に付け多様性を受入れるとともに、コミュニケーション能力を養成する。</p>	<p>対話的コミュニケーション能力を修得させるとともに、学生寮においてもコミュニケーション能力養成に向けた取組について支援する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語及び身体コミュニケーションについて基礎的な能力を修得させるため、次の科目を開講 <ul style="list-style-type: none"> 【第1・3Q】「コミュニケーション演習」「身体コミュニケーション実習」 【第2・4Q】「演劇ワークショップ実習A・B」「ダンスワークショップ実習A・B」 ・学生寮（4人1室のシェアハウス型居室や交流室等）での共同生活、留学生を含む学生同士の対話を通じてコミュニケーション能力を養成 ・自治会の運営等、学生寮における学生の自主的な取組に対する支援を実施 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目の授業評価アンケート：学生理解度 80%以上 ・退寮時アンケート「コミュニケーション能力の向上につながった」と回答した者の割合：80%以上

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
37	<p>〔芸術文化及び観光のマネジメント能力の養成〕 芸術文化分野及び観光分野のいずれかを主となる専攻、他方を副となる専攻として、両分野を架橋する教育課程を編成し、双方の視点を生かして芸術文化と観光の事業活動を推進するための芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力を養成する。</p>	<p>芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造能力を養成する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の科目を芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造能力を養成する科目として位置づけ、両分野を架橋する学びの実効性を担保 【1年次】：「芸術文化と観光」「観光事業概論」「アートマネジメント概論」 【2年次】：「事業創造入門」「観光産業マーケティング論」「文化施設運営論」「地域創生論」 【3年次】：専攻毎の「専門演習」、「クロスオーバー科目」 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目の授業評価アンケート：学生理解度 80%以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学

(1) 教育に関する措置 ～芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学～

イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
38	<p>〔地域を活性化し我が国に活力をもたらす人材の育成〕</p> <p>芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを推進し、その学びの意義を、学生・教員のみならず広く地域社会と共有し、地域と連携した教育を展開する。</p> <p>また、地域社会をフィールドに、様々な主体と連携を図りながら多彩な実習プログラムを展開し、地域課題の解決を推進することで、地域の魅力を再発見、再認識し、地域での新たな事業を創出できる地域の担い手となる人材を育成する。</p>	<p>地域との連携による教育を展開し、カリキュラム編成や授業方法の改善に繋げるとともに、地域との交流を通じて、まちづくりや地域経済の発展に貢献できる人材を育成する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程連携協議会において、産業界及び地域社会との連携によるカリキュラムの編成や実習等授業の実施方法、実施状況の評価等について協議 ・全学生対象のアンケート及び授業評価を実施し、芸術文化と観光の両分野を学ぶ意義の理解度を把握 ・まちづくりや地域経済の発展に貢献できる人材育成に向けて以下の内容に取り組む <ul style="list-style-type: none"> 【1年次】但馬のスキー・キャンプ場等における施設運営・接客業務 駅や空港における旅客・予約業務や国際的な演劇祭における運営・接客 【2年次】兵庫県内の伝統的な旅館やホテルにおける運営管理・接客業務 旅行会社や文化ホール等における運営管理業務 地域課題の解決策を但馬の地元市町等と考える地域創生実習 【3年次】但馬の地元市町等と新たな誘客方策を考える「デスティネーション実習」 新たな文化振興計画等を考える「文化政策実習」 但馬の地元企業等をフィールドにイノベーション戦略を学ぶ「地域イノベーション実習」 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目の授業評価アンケート：学生理解度 80%以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学

(1) 教育に関する措置 ～芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学～

ウ 世界に通じる専門職業人の育成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
39	<p>〔実践的な語学教育と国際感覚の醸成〕</p> <p>基礎的な英語能力を修得した上で、各職業分野で必要とされるキャリア英語など実践的な語学スキルを身に付ける。また、英語以外の多言語教育を推進する。併せて、全ての学生が体験できる海外実習や海外語学研修の拡大や、海外との大学間協定に基づく教員・学生の交流を通じて、本学のグローバル展開を推進し、多様性を理解できるグローバル人材を養成する。</p>	<p>実践的な語学力を修得させるとともに、海外実習・海外語学研修等を通じてグローバル人材を養成する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語授業科目において、少人数の講義によるバランスの取れた英語の4技能を修得 ・集中的なタスク活動を行う「英語合宿」において実践的な語学力を修得 ・英語以外の言語（中国語・韓国語）によるコミュニケーション力の修得に向けた多言語教育の充実に向けた取組を推進 ・海外との大学間協定に基づく教員・学生の交流を通じて、本学のグローバル展開を推進 ・海外実習及び海外語学研修の積極的な履修の働きかけ <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目の授業評価アンケート：学生理解度 80%以上 ・海外の大学との協定件数：10件（令和7年3月まで） ・海外実習及び海外語学研修派遣学生数：前年度実績以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学

(1) 教育に関する措置 ～芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学～

エ 人材育成に向けた教育システムの構築

(7) 芸術文化及び観光の双方の視点を培うカリキュラムの編成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
40	<p>〔芸術文化及び観光の両分野を体系的に学ぶ教育課程の編成〕 芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力のそれぞれ基礎となる知識・技能を養成する「コア科目群」と、副となる専攻の中でキャリア形成上必要となる科目を分野を超えて学ぶ「クロスオーバー科目」を配置し、体系的に教育課程を編成することで、芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する能力を養成する。 また、「コア科目群」には、芸術文化及び観光・経営の双方の教員が担当する「相互アプローチ科目」を配置し、両分野が密接に連携した教育を推進する。</p>	<p>芸術文化と観光の両分野を体系的に学ぶ教育課程を編成する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コア科目群」（芸術文化及び観光を学ぶ上で軸となる重要な科目）、「クロスオーバー科目」（専攻分野ではないもう一方の副となる専攻科目）の円滑な履修を促し、双方の分野の軸となる能力を着実に修得させる。 ・芸術文化及び観光・経営の双方の教員により芸術文化と観光を相互に学ぶ「相互アプローチ科目」の履修を通じて、芸術文化と観光の双方の視点を生かし、新たな価値を創造するための基礎的な知識・技能を修得させる。 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目の授業評価アンケート：学生理解度 80%以上
41	<p>〔卒業後の進路を見据えたアカデミックアドバイザー制の導入〕 主となる専攻分野が分かれる2年次以降は、主となる専攻分野の教員を主担当、副となる専攻分野の教員を副担当として配置し、学生と教員が個別面談を行いながら履修計画を作成するアカデミックアドバイザー制度を導入し、きめ細やかな研究指導や進路支援を行う。</p>	<p>クラス担任制・アカデミックアドバイザー制を導入する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と学生との個別面談を通じて、カリキュラムの特徴や各教員の研究テーマ、履修要件を丁寧に周知 ・卒業後の進路等を踏まえた学修目標の設定と達成に対する支援を継続的に実施 ・学生の適性や意欲、成績等を勘案した指導を実施 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談の実施回数：年2回以上

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
42	<p>〔完成年度後に向けた教育研究体制の構築〕</p> <p>大学の設置計画を基本としつつ、ポストコロナを見据えたDXの推進やSDGsへの取組を加速させる等、社会情勢の変化に応じて教育課程の見直しを柔軟に行うとともに、独自性を高めたカリキュラムの編成や教員の配置等、新たな教育研究体制の構築に向けた検討を始める。</p> <p>また、学部教育の成果を進化させた教育の場として、大学院教育の必要性について検討を行う。</p>	<p>完成年度後を見据え、新たな教育研究体制の構築に向けた検討を行う。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム再編プロジェクトチームを中心に完成年度後を見据えたカリキュラム編成及び芸術文化と観光が関連した授業の改善策の検討 ・大学院検討プロジェクトチームによる大学院教育の必要性について検討 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討回数、検討内容等により総合的に評価

(イ) 新たな学びの手法による実践力の養成

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
43	<p>〔高度な実践力と豊かな創造性を育成する教育方法の導入〕</p> <p>クォーター制（学年歴を4期に区切る）を導入し、理論化・体系化された「系統学修」と現場での経験を通じた「実践学修」を交互に行うラーニング・ブリッジングにより、学生の学びを深化させる。</p> <p>また、講義と、演習やグループ討議などのアクティブラーニング（能動的学修）を組み合わせることで、知識・技能の定着を図る。</p>	<p>ラーニング・ブリッジング及びアクティブラーニングを導入する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1・3クォーターでは講義や演習による学び、第2・4クォーターでは実習への参加により、芸術文化と観光の双方の視点の学びを実践の場において深化させる。 ・授業時間を120分に変更するが、授業の前半と後半では講義と演習を組み合わせたアクティブラーニングを引き続き実施することにより学生の知識と技能の修熟度を向上させる。 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生対象のアンケート及び授業評価の実施等により総合的に評価

(ウ) 段階的かつ重層的に体系化した実践教育の展開

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
44	<p>【実践的な実習カリキュラムの編成】</p> <p>卒業単位の1/3以上を占める実習について、専門実務から企画運営・マネジメントに至るまで段階的に体系化した実践的な実習カリキュラムを編成することにより、質の高い専門職業人を育成する。</p> <p>そのために、文化ホール・劇場、観光交通、旅行事業、旅館・ホテル、豊岡演劇祭等のイベントにおける隣地実務実習等を配置し、社会の現場で行われている業務を修得し、実践力を身に付ける。</p>	<p>実践的な実習カリキュラムを編成し、実習内容を充実させる。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「芸術文化・観光プロジェクト実習1」において、両分野の連携に関する課題発見とその解決、新しい展開に向けての視点を獲得するための実習を展開 ・演劇やダンスの実習、観光資源や観光交通の実習により専門職業人としての基礎的な能力を修得 ・宿泊業や旅行事業、劇場プロデュース、地域創生等のより専門的で実践的な実習により高度な能力を修得 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目の授業評価アンケートにおける学生理解度：80%以上 ・実習説明会、成果発表会の開催回数：それぞれ年2回以上

(I) 産業界と地域社会との連携

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
45	<p>〔産業界・地域社会と連携した教育課程の編成及びキャリア支援の充実〕</p> <p>教育課程連携協議会及び地域リサーチ&イノベーションセンターにおいて、関係団体や市町と連携することで、産業界、金融界や地域社会のニーズを的確に捉え教育課程に反映させる。</p> <p>また、キャリアサポートセンターにおいて、学生の将来ビジョン実現に向けた丁寧な学修支援、就職支援を一貫して行うとともに、芸術文化と観光の実践的な学修成果を生かすことができるよう、企業や団体、市町と連携を図り、幅広い進路選択肢を開拓し、就職支援を充実させる。</p>	<p>産業界・地域社会と連携した教育課程の編成やキャリア支援の充実に取り組む。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体、実習先、地方公共団体等により構成する教育課程連携協議会の開催 ・地域リサーチ&イノベーションセンター（以下「RIC」という）において地域の企業・団体、行政、地域住民、金融機関等からのニーズを把握 ・教育課程連携協議会とも連携しながら最新の知識・技術・技能等をカリキュラム編成に反映させるとともに不断の見直しを実施 ・キャリアサポートセンターの常時開放、就職ガイダンス等を通じた就職やキャリア形成に関する必要な情報を提供 ・教職員の連携による学生の将来ビジョン実現に向けた学修支援、就職支援を実施 ・芸術文化と観光の双方を学んだ実践的な学修成果が卒業後に生かされるようにするための幅広い進路選択肢を開拓 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセミナーの開催回数：前年度実績以上 ・学生と教員との個別面談の実施回数：年2回以上 ・就職情報交換会の開催回数：年3回

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学 (2) 研究に関する措置 ~芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学~
ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
46	<p>〔芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した研究の推進〕 本学の研究分野の特性や強みを生かし、芸術文化及び観光それぞれの研究を深化させるとともに、「芸術文化観光学」を新たな学問分野として確立させるため、紀要の編集や研究センターの設置、学会の創設等「芸術文化観光学」の研究を推進する。</p>	<p>「芸術文化観光学」の研究を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「芸術文化観光学研究プロジェクト」の学内公募を実施 ・両分野の教員が協働して行う先進的、共創型研究及びコロナ禍で大きな影響を受けた芸術文化と観光の分野について、ポストコロナに向けた新しいあり方の研究を推進 ・芸術文化及び観光分野の文献、両分野を横断的に接続するような文献を戦略的に拡充 ・芸術文化観光学の研究推進に寄与する紀要を定期的に発行 ・新設した研究推進委員会において、芸術文化観光学の研究推進のための研究センター設置に向けた具体的な検討 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化・観光の両分野共同研究プロジェクト数：各年度5件 ・紀要、研究シーズ集の発行：それぞれ年1回以上 ・研究センター設置の検討について、検討回数・検討内容等により総合的に評価

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
47	<p>〔地域活性化に資する研究の推進〕</p> <p>地域リサーチ&イノベーションセンターの活動に全教員が関わり、地域課題に対応する中で実践的な研究を推進する。</p> <p>また、他大学との連携による共同研究や産学連携活動等によりイノベーションを創出する。</p>	<p>地域活性化に資する研究を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R I C が地域との協働によるプロジェクトを展開するため地域の企業・団体、行政、地域住民、金融機関等からのニーズと教員の研究シーズのマッチングを促進 ・ 兵庫県立大学をはじめとする他大学との連携事業の推進及び実践的な研究を推進 ・ 大阪・関西万博へのアプローチとして、自主事業を検討 ・ 地域の図書館施設と連携し、専門性を確保しつつも地域住民の利用が促進されるような図書を積極的に配架 ・ 研究推進委員会、市町等と連携し、但馬地域の文化資源を芸術作品の創造へと利活用する「創造的アーカイブ構想」の検討 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携事業者数：50 者（令和7年3月まで） ・ 学術情報館の一般利用者数：前年度実績以上 ・ 「創造的アーカイブ構想」の検討について、検討回数、検討内容等により総合的に評価

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学 (2) 研究に関する措置 ~芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学~
イ 研究成果の社会への還元

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
48	<p>〔産学官の協働関係・ネットワークの構築〕</p> <p>地域と伸びる大学として、地域リサーチ&イノベーションセンターを中核とした産学官の協働関係・ネットワークを構築し、多様な主体との連携による共同研究、受託研究を推進する。</p> <p>また、学会、シンポジウムなどにおいて研究成果を積極的に発信し、社会に還元するとともに、本学の存在価値の向上に繋げる。</p>	<p>民間企業等と産学連携を促進するための体制づくりを進めるとともに、研究成果を社会へ還元する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R I C を中核とした、地域の多様な主体との協働・ネットワーク体制構築に向けた広報活動を積極的に展開 ・ R I C 協議会の定期的な開催をはじめ、民間企業等と産学連携を促進するための体制づくりを推進 ・ 研究に関する外部資金の導入支援の実施や学会、シンポジウム等での発表、研究シーズ集の作成など、様々な媒体を活用して積極的に情報を発信 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R I C への相談件数：400 件（令和7年3月まで） ・ 連携事業者数：50 者（令和7年3月まで） ・ メディアに取り上げられた件数：100 件（令和7年3月まで） ・ R I C のインスタフォロワー数：前年比+200 人 ・ 科学研究費補助金等外部資金の申請者率：各年度 80% ・ 外部資金獲得額：3,000 万円/年 ・ 紀要、研究シーズ集をそれぞれ年 1 回以上発行

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学 (3) 社会貢献に関する措置 ～地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学～

ア 大学が有する資源の地域社会における活用

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
49	<p>〔地域のイノベーションの創出と新たな地域創生モデルの構築〕 地域リサーチ&イノベーションセンターを中心に、企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、イノベーション機能を発揮することで、新たな事業創出や新規施策の展開等を図り、持続可能な地域活性化を実現する。 また、企業や団体で行う臨地実務実習やボランティア活動において、学生が地域と関わり、地域が自らの価値を再発見し発展につなげていくことで、地域創生の新しいモデルを構築する。</p>	<p>地域のイノベーション創出及び地域創生の新しいモデルの構築に取り組む。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R I Cにおいて、地域の企業・団体、行政、地域住民、金融機関等の多様な主体と協働し、地域のイノベーション創出に繋げるプロジェクトを展開 ・ 実習やフィールドワーク、演劇祭等のイベント、ボランティア活動等、様々な場面における学生と地域との連携を積極的に支援 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R I Cへの相談件数：400件（令和7年3月まで） ・ 連携事業者数50者（令和7年3月まで） ・ 地域連携事業への学生参加数：180人(中期計画期間延べ累計)
50	<p>〔ポストコロナを見据えた地域連携事業の新たな展開〕 企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、2025年に開催される大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭の観光客を兵庫県・但馬に誘客する等、ポストコロナを見据えた新たな地域連携事業モデルを構築する。</p>	<p>ポストコロナを見据えた地域連携事業の新たな展開を検討する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪・関西万博を見据えた自主事業や新たな地域連携事業のモデルの構築に向けた取り組みを検討 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討回数、検討内容等により総合的に評価

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学 (3) 社会貢献に関する措置 ~地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学~
イ 大学の長を生かした地域貢献の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
51	<p>〔県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進〕</p> <p>県民や企業のニーズを踏まえた公開講座の開設や、コミュニケーション教育の小中高校におけるアウトリーチ、劇場等の大学施設の活用や図書館の地域への開放等により、本学の長を生かした特色ある学びの機会を県民に広く提供する。</p>	<p>本学の長を生かした特色ある学びの機会を提供する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の特徴的な学びを県民と共有する市民講座や、地元企業の人材育成に寄与するリカレント講座を開設 ・学内施設の開放 ・地域の高校に向けた演劇的手法を用いたコミュニケーション教育の展開や学校への教員派遣 ・シリーズ「パフォーミング・ライブラリー」として、学外講師を招いたワークショップや図書の有効活用等、学術情報館を活用した様々な年齢層に向けたイベントを開催 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の延べ受講者数：300人／年 ・市民講座及びリカレント講座のアンケート結果：満足度80%以上 ・但馬地域全高等学校・高等専修学校・特別支援学校でコミュニケーション教育を実施 ・「パフォーミング・ライブラリー」の開催：年1回以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 芸術文化観光専門職大学 (3) 社会貢献に関する措置 ~地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学~
ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
52	<p>〔地域と世界を結びつける国際交流の推進〕</p> <p>海外大学等との協定締結や、実習の場となる国際的な芸術祭などを通じて、海外との交流を推進することで、地域の国際交流に貢献する。</p>	<p>本学独自の教育研究のグローバル展開を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外実習先を新たに開拓 ・大学間協定に基づく本学独自の教育研究のグローバル展開を推進 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の大学との協定件数：10件（令和7年3月まで） ・海外実習及び海外語学研修派遣学生数：前年度実績以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第2 教育・研究・社会貢献>

第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 両大学の教育、研究及び社会貢献における連携

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
53	<p>〔教育連携の推進〕 兵庫県立大学の地域資源や防災、国際社会等に関する教育や、芸術文化観光専門職大学の演劇手法によるコミュニケーション教育など、両大学の特色ある教育等について、県立大学「全学共通科目」、専門職大学「基礎科目」等にかかる相互乗り入れ授業を実施し、両大学の学生の科目選択の幅を広げるなど、教育面での連携を推進する。</p>	<p>両大学の学生の科目選択の幅を広げることを目指し、両大学間での科目提供や教員が相互で授業担当するなど、連携可能な分野、科目について検討を進める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マネジメント研究科が芸術文化観光専門職大学に専門科目の科目提供を実施 ・芸術文化観光専門職大学の「展開科目」を県立大学教員が引き続き担当
54	<p>〔研究連携の推進〕 異なる専門分野を持つ両大学の研究面での積極的な交流を図り、共同研究等を通じて、新たな知見を創出する。 特に、ともに但馬地域を主なフィールドとする兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学との共同研究発表の実施等の研究連携を推進する。</p>	<p>両大学の学問分野や研究内容、双方の特色ある取組等について理解を深めるため、両大学間の教員等の交流を推進し、連携可能な研究課題、異分野融合等について検討する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学の教員による共同研究実施に向けた研究交流を推進 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・両大学による研究交流会の開催件数：5件
55	<p>〔社会貢献連携の推進〕 総合大学として幅広い学問分野を有する兵庫県立大学と、芸術文化及び観光の双方の視点を生かした取組を進める芸術文化観光専門職大学が連携を図り、新たな地域課題への対応や産学官連携の進展等の社会貢献を進める。 特に、ともに但馬地域を主なフィールドとする兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学との連携を深める。</p>	<p>両大学間の教員等の交流を通じて、地域課題の共有を図るとともに、連携可能な社会貢献活動について協議を進める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬地域における両大学による公開講座等の共同開催

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 戦略的経営の推進に関する措置

(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
56	<p>〔戦略的な法人経営体制の整備〕</p> <p>「理事長・学長分離型」を引き続き採用し、理事長のリーダーシップのもとで、理事会や経営審議会の意見も踏まえながら、戦略的な法人経営を行う体制を推進する。</p>	<p>理事長のリーダーシップのもと、理事会や経営審議会の意見も踏まえ、両大学とも十分に連携を図りながら、中期目標・中期計画を着実に推進する。</p>
57	<p>〔両大学の特色を生かした運営〕</p> <p>両大学の独自性を確保するため、それぞれの大学に大学理事会を置き、特色を生かした大学運営を行う。</p>	<p>両大学において大学理事会を必要に応じて開催し、法人の理事会・経営審議会に諮るべき重要事項について、事前に協議するとともに、それぞれの大学で意思決定可能な案件について協議・決定する等、両大学の特色を生かした大学運営を行う。</p>
58	<p>〔設立団体との連携〕</p> <p>設立団体である県との間で、大学の発展と課題解決に向けた方策等を協議するため、定期的に総合運営会議を実施する等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p>	<p>県と大学法人が密接に連携して法人運営を行うため、知事等の県幹部と理事長、学長等の大学法人幹部が、大学運営に関する重要案件に関する協議や意見交換を行う。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県と大学法人の総合運営会議の開催
59	<p>〔教員評価制度の運用〕</p> <p>部局や研究分野の特性に応じて、研究成果の目標や評価基準等を適切に設定し、教育研究・社会貢献活動等の活性化に資するよう、教員評価制度の効果的な運用に努める。</p>	<p>教員活動の活性化に資するため、教員評価制度に基づく教員評価を実施する。兵庫県立大学では、導入初年度となる教員評価システムについて、適切な利用の周知を行い、安定的な制度の実施に努める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月から教員評価システムを運用開始するとともに、教員の業績データ等を活用し、戦略的に研究を推進（兵庫県立大学） ・教育・研究活動において優れた取組を行った教員への表彰（兵庫県立大学）

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
60	<p>〔任用形態の多様化及び事務局体制の強化〕</p> <p>多様な任用形態を進めることで教員の質の向上を図るほか、任期付教員制度の見直しを検討する等、社会の変化に対応した教育研究体制を推進する。また、県派遣職員の法人独自職員への計画的な置換えや人員・組織の充実等、事務局体制の強化を図る。</p>	<p>多様な任用形態を推進し、優秀な教員の確保と定着を図るとともに、県派遣職員の法人独自職員への計画的な置換えや人員・組織の充実の実現に向けた取組を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任用形態の多様化：クロスアポイントメント制度や積極的無期転換の活用 ・事務局体制の強化：法人独自職員への置換計画の策定や各種制度の新設・改正、採用活動等
61	<p>〔ダイバーシティの推進〕</p> <p>性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、多様な人材がその能力を最大限に活かし、共創できる環境の実現を目指し、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する。</p>	<p>両大学において、教職員のワークライフバランスの充実を図る。また、学生及び教職員個々の多様性に配慮した取組を検討・実施するとともに、他大学とのネットワークを活用した情報交換や連携を積極的に進めていく。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D&I宣言に基づき、女性教員・外国人教員を積極的に採用 ・子育て中の研究者支援や女性研究者の上位職登用を目的とした研究活動助成 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性教員比率：24.5% ・女性教員の管理職割合：24.0% ・外国人教員比率：4.5%（再掲）
62	<p>〔FD・SDの推進〕</p> <p>組織的かつ個人的な能力の向上に資するFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）を推進し、教職員が一体となって教育水準の向上を図る。</p>	<p>両大学において、教育研究活動の質の更なる向上を図るため、教職員に対するFD・SD活動を推進する。</p> <p>＜主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証システムの構築に資する全学的なFD・SD活動 ・新任教職員研修の着任後速やかな実施、教職員向けの障がい学生支援研修会の実施 <p>＜評価指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの質を高める全教員対象の研修会（芸術文化観光専門職大学）：年6回以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 戦略的経営の推進に関する措置

(2) 魅力発信と知名度向上

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
63	<p>〔戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上〕</p> <p>ターゲットに応じて効果的に情報発信する広報活動を戦略的に展開するほか、教育研究・社会貢献活動の内容や成果について、メディアやホームページ等を通じて広く国内外に積極的に発信することで両大学の知名度の向上、ブランドの構築を図る。</p>	<p>両大学において、学内の組織的な取組を活用して、教育・研究・社会貢献活動の内容や成果等の情報を収集し、広報戦略に基づいて情報の多様な受け手に応じて効果的に情報発信する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信力を強化するため両大学のホームページを刷新 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアに取り上げられた件数：600件（両大学それぞれ） ・大学入学者志願倍率（兵庫県立大学：学部・一般選抜）：公立大学全国平均以上（再掲） ・大学入学者志願倍率（芸術文化観光専門職大学：一般選抜）：5倍 ・オープンキャンパス参加者数：前年度実績以上

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 戦略的経営の推進に関する措置

(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
64	<p>〔最先端工学教育研究拠点の整備による世界水準の教育研究等の推進〕</p> <p>老朽化・狭隘化した兵庫県立大学姫路工学キャンパス施設について、最先端の工学教育研究・人材育成・地域支援の拠点としての機能強化を目指し、施設の建替整備を計画的に進める。</p>	<p>姫路工学キャンパス新3号館、新4号館の建替に向け、旧棟の解体業務を計画的に進める。また、化学廃水処理施設新設にあたり、土壌調査にかかる調整等を適切に実施する。</p>

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 効率的経営の推進に関する措置

(1) 経営資源の重点配分・相互利用

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
65	<p>〔両大学の経営資源の相互利用〕</p> <p>両大学の教育研究水準の維持・向上や中長期的な教育研究ビジョンの達成等に当たって、両大学の施設等の経営資源の相互利用や共通の情報システムの活用を行う等、法人としてコスト縮減を図り、効率的な経営を行う。</p>	<p>両大学の施設等の経営資源の相互利用や共通の情報システムの活用を行う等、効率的な経営を行う。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの一体的な管理運営 ・図書館の相互利用システムによる研究分野が異なる両大学の図書館の有効活用
66	<p>〔デジタルトランスフォーメーション（DX）による経営の効率化・高度化〕</p> <p>マネジメント部門におけるDXを推進し、総務・人事・財務等の法人運営や教育・研究を支援する業務の効率化及び高度化を図る。</p>	<p>効率的な業務推進を図るための総務系システムや勤怠管理システムについて、県派遣職員の法人独自職員への計画的な置換えや人員・組織の充実等の取組とあわせて、導入に向けた検討を行う。</p>
67	<p>〔適切な教職員の配置〕</p> <p>教育研究組織の統合・再編やカリキュラム内容の改編等に伴う教員配置の見直し、業務内容の変化や業務量の変動に伴う事務局組織の見直し等を随時行い、一層柔軟かつ適正な教職員の配置に努める。</p>	<p>教育研究組織の統合・再編・新設等の検討を引き続き行うとともに、芸術文化観光専門職大学との連携を密にし、業務内容の変化や業務量の変動に伴う事務局組織の見直しを法人含めて行い、適正な教職員配置を行う。</p>
68	<p>〔教職員の多様な働き方の推進〕</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として限定的に認めている時差出勤や在宅勤務を制度化する等、教職員の多様な働き方の実現に向け検討を行う。</p>	<p>多様な属性の教職員の意見を聞きながら「働き方のあり方」を検討し、可能なものから実施していく。</p> <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性教職員の育児休業取得者割合：25%（兵庫県立大学）

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
69	<p>〔外部資金等を活用した先導的・創造的な研究への重点配分〕 競争的外部資金により獲得した外部資金間接経費等を財源として、先導的・創造的分野に資金を重点配分し、研究の高度化を図る。</p>	<p>兵庫県立大学では、各部局の個性化・特色化を推進するため、部局長の裁量により執行する「部局特色化推進費」について、外部資金の獲得実績に応じた配分方法により交付する。また、戦略的・創造的な研究の取組を支援し、学内の研究活動の活性化を図るため、「特別研究助成金」を交付する。</p>

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 効率的経営の推進に関する措置

(2) 安全・快適な環境の計画的整備

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
70	<p>〔安全・快適な教育研究環境に係る施設の整備及び機器設備の整備・更新〕</p> <p>兵庫県立大学では、教育研究環境の改善・充実を図るため、「兵庫県立大学施設整備管理計画」に基づき、計画的な施設の長寿命化・老朽化対策に取り組むほか、機器設備の整備・更新を進め、先端的な研究を支援する。</p> <p>芸術文化観光専門職大学では、適切な施設管理等を実施し、安全・快適な教育研究環境の維持・充実を図る。</p>	<p>兵庫県立大学では、教育研究環境の改善・充実を図るため、「施設整備管理計画」に基づき計画的な施設の長寿命化・老朽化対策を実施するとともに、キャンパスアメニティの向上を図る。また、大学の教育力・研究力を安定的に向上させるため、「高額機器整備計画」に基づき、老朽化・陳腐化が進む機器について計画的に更新を進める。</p> <p>芸術文化観光専門職大学では、劇場の舞台・照明・音響設備等の維持管理を適切に行うとともに、学生向けに安全講習会を行うなど、安全かつ快適に学生が劇場等の実習施設を利活用できる体制を推進する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸商科キャンパス外壁改修（兵庫県立大学） ・姫路工学キャンパス電界放出型走査電子顕微鏡の更新（兵庫県立大学） ・他大学における劇場利用の事例研究や海外も含めた劇場施設との交流、連携を進めることで劇場運営の今後のあり方を検討（芸術文化観光専門職大学）

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 自律的経営の推進に関する措置

(1) 財務運営の改善

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
71	<p>〔競争的研究資金等への積極的な申請による外部資金の獲得〕 研究力の強化を図るため、リサーチ・アドミニストレーターの支援等も活用しながら、外部資金獲得への取組に対する適切な支援を行い、積極的な申請を促し、競争的研究資金や公募型研究事業の採択を含めた外部資金の獲得を図る。</p>	<p>教員に対して外部資金の獲得に向けた情報発信等の支援を充実させ、科学研究費補助金の全学的な申請率の向上や外部資金の積極的な獲得に努める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携・研究推進機構の研究企画コーディネーターが研究助成金の情報を集約し、全教員に向けて情報提供を実施（兵庫県立大学） ・外部資金の獲得につなげるため、学長の特色・個性化経費を活用した「特別研究プロジェクト事業」を実施（兵庫県立大学） ・研究支援コーディネーターを中心に外部資金獲得を支援（芸術文化観光専門職大学） <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得額：20億円（兵庫県立大学、再掲） ：3,000万円（芸術文化観光専門職大学、再掲） ・科学研究費補助金等の申請者率：100%（兵庫県立大学、再掲） ：80%（芸術文化観光専門職大学、再掲）
72	<p>〔ふるさとひょうご寄附金制度とも連携した基金の充実〕 大学の将来的なビジョンや事業メニューを効果的に県内外に紹介し、県のふるさとひょうご寄附金制度とも連携して、県民、卒業生や企業等から幅広く寄附金を募り、「兵庫県立大学基金」や「芸術文化観光専門職大学基金」の充実を図る。</p>	<p>兵庫県立大学基金、GBC留学生支援基金、兵庫県立大学附属中学校・高等学校応援基金、芸術文化観光専門職大学基金について、広く寄附金を募り基金の充実を図る。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生（同窓会）や在学生の保護者、一般・企業を中心に、積極的なPR活動を展開 ・大学行事等のイベントの機会を捉えて効果的なPR活動を実施

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 自律的経営の推進に関する措置

(2) 自己点検・評価及び情報の提供

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
73	<p>〔中期計画等の評価への適切な対応及びP D C Aサイクルの確立〕</p> <p>中期計画を着実に推進し、自己点検評価及び県の法人評価委員会の評価等へ適切に対応しながら、その改善に向けた取組を進めるP D C Aサイクルの確立を図る。また、併せて中期計画期間3年経過後に、3年間の総合的な評価を実施し、中期計画の見直しも含めて検討する。</p> <p>さらに、芸術文化観光専門職大学については、文部科学省への開学後4年間の履行状況報告の中でP D C Aサイクルの確立等適切な対応を図る。</p>	<p>令和4年度業務実績及び第二期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に対する法人評価委員会の評価結果を、年度計画や業務運営の改善に適切に反映させるとともに、その反映状況をHPで公表する。</p> <p>また、自己点検の結果を踏まえた取組を進めることにより、P D C Aサイクルを推進する。</p>
74	<p>〔情報公開の推進〕</p> <p>教育研究活動や大学運営状況等に係る情報を整理・蓄積し、適切に公開することにより、県民・社会への説明責任を果たす。</p>	<p>中期計画や年度計画、財務諸表等の運営に関する情報について、HP等により広く社会に公表するほか、両大学において、教育情報の公開等を適切に行う。</p> <p>また、両大学において、研究者情報の充実や研究シーズ集・研究者マップ等の作成により、両大学の有する研究成果や人材情報等を公開・発信する。</p>

兵庫県公立大学法人 令和5年度 年度計画 <第3 管理運営>

第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 自律的経営の推進に関する措置

(3) コンプライアンスの推進

ア 法令の遵守

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
75	<p>〔コンプライアンスの推進〕 コンプライアンス事案を予防するため、教職員に対し、法令・社会的規範等の遵守の重要性について、意識啓発を一層徹底する。とりわけ、各種ハラスメントによる人権侵害を防止し、学生や教職員が快適な環境のもとで修学又は就労できるよう、相談員の適切な配置や教職員に対する研修等に取り組む。また、コンプライアンス事案等が発生した際は、関係規程等に基づき、適切に対応する。</p>	<p>コンプライアンスを確実に推進するため、教職員の法令遵守等の意識啓発を徹底する。特に、各種ハラスメント事案の発生を防止するため教職員の意識向上や相談員のスキルアップを図るほか、学生や教職員が相談しやすい体制の整備、周知に努める。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス推進会議の定期的な開催 ・ハラスメント事案発生防止のための研修会・事例検討会 <p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス推進会議の開催：年2回以上（両大学それぞれ） ・ハラスメントに関する研修会等の開催：年1回以上（両大学それぞれ）

イ 安全管理体制の確保

No.	第二期中期計画	令和5年度 年度計画
76	<p>〔安全管理体制の確保〕 学生や教職員の安全と健康を確保するため、安全・衛生管理に着実に取り組むとともに、南海トラフ地震や新型コロナウイルス感染症等、法人全体の運営に重大な影響を及ぼすリスクに対して、事業継続計画（BCP）を策定のうえ、適切に運用し防災対策を強化する。また、インターネットからのサイバー攻撃等が急速に複雑化・巧妙化している状況を踏まえて、情報システムのセキュリティ強化を図る。</p>	<p>学生や教職員の安全と健康を確保するため、安全・衛生管理に着実に取り組むとともに、事業継続計画（BCP）を適切に運用し防災対策を強化する。また、情報システムのセキュリティ強化や教職員に対するセキュリティ研修を実施する。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業環境測定の実施・衛生管理者の養成 ・人事異動等に伴う組織体制の変化を災害対策用BCPに適切に反映 ・災害発生時に必要となる資源の計画的な整備・更新 ・定期的な標的型メールの訓練やセキュリティ研修（学術総合情報センター）